

2019年度 太陽光発電用パワーコンディショナの出荷量動向調査結果(グラフ)

はじめに

太陽光発電システムの出荷量動向調査は、1987年に旧通産省工業技術院委託事業である新発電システムの標準化に関する調査研究の一環として、社団法人日本電機工業会(JEMA)太陽光発電システム・機器分科会が調査内容を審議し、1987年度出荷分から本格調査を開始した。2001年度からはJEMAの自主事業として実施していたが、システム数の増加及び流通経路の複雑化により、システム単位での出荷量を把握することが困難になってきた。そのため、JEMA太陽光発電システム技術専門委員会で調査方法及び調査内容について審議し、2008年度から対象をシステムからパワーコンディショナ(以下、PCSとする。)に絞り調査を行うこととした。2011年度からは、コンプライアンスの観点から、統計を専門に扱うPVパワコン統計委員会を新たに設置し、JEMA会員を対象に調査を行なった。さらに2012年度からは、より確度の高い調査を行うため、対象をJEMA会員外にも拡大した。2013年度からは国内生産品及び輸入品の区分を追加し、電気事業法上の低圧及び高圧の境となる直流750V超か否かも併せて追加した。

2014年度からは、より詳細な動向調査のため、年度を上期・下期の2期に分けて調査を開始した。本報告は、上期・下期それぞれの調査結果を年度としてまとめ、データを分析したものである。

2014年度分、2016年度分～2019年度分の調査結果においては、仕向け先の区分け(2. b参照)のうち、“海外向け”の集計結果が統計規約を満たさないことから、当該年度の海外向け出荷量を“0”として扱った。このため、2014年度分、2016年度分～2019年度分の“海外向け”集計結果が「非公開」となっていることに留意いただきたい。

※市場情報をより早くお届けするため、2019年度より確定値データをグラフ形式にて公表することといたしました。「電機」発行後にはこれまでと同様の抜粋版を追加掲載いたしますが、本データは確定値であり、「電機」掲載の数値と相違は生じません。









